永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2016年 2月

「三重のメッセージ」「御霊に満たされた生涯」「新しい契約」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

「三重のメッセージ」 今月の聖書勉強 聖書の教え 「御霊に満たされた生涯」 今日のわたしの生涯 現代の真理 「新しい契約」 七つの封印と生ける神の印 力を得るための食事 「ロール白菜」 お話コーナー 「イエスさまのお誕生(下)」 イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1 電話:0494-22-0465

FAX: 0494-40-1045

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2 電話:088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話:0980-55-8136

発行日 2016年1月31日 編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション 〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamtimes on front cover; HighRes on pages 8, 52, Joe Maniscalco on back cover.

Printed in Japan

今こそ、天は、よろこんだ

今、救い主のみ言葉に従って、弟子たちはこの賜物を懇願し、天においては キリストがそのとりなしをしておられた。主はその民にみ霊を注ぐことができるよ うに、み霊の賜物をお求めになったのである。

「五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、突然、激しい風が 吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱいに響き わたった」。

み霊は、祈りながら待っていた弟子たちに臨み、ひとりびとりの心を十分に満たされた。無限なる神が、力をもって教会にご自身を現されたのである。……今こそ、天は、み霊の恵みの富を教会に注ぐことができることをよろこんだ。……全天は崇敬の思いでこの比類のない、無限の愛に輝く知恵を見守り、あがめた。使徒たちはわれを忘れて「ここに愛がある」と叫んだ。彼らは与えられた賜物をしっかりと握りしめた。……

キリストの昇天は、主に従う者たちが約束の祝福を受けることのしるしであった。彼らは、仕事にとりかかる前にこれを待たなければならなかった。……ペンテコステの聖霊降下は、あがない主の就任式が完了したことを知らせる天からの通報であった。主は、その約束に従って、ご自分が祭司、また王として、天と地のすべての権威を引き継ぎ、神の民の上に立つ油そそがれた者となられたしるしとして、弟子たちに天から聖霊を送られたのであった。(患難から栄光へ上巻 31~34)

聖霊の賜物に力づけられて、彼らは、十字架の勝利を更にひろげたいという 熱意に燃えて出て行った。聖霊は彼らを活気づけ、彼らを通して語った。キリストの平和が彼らの顔から輝き出た。彼らの生涯を奉仕のために主にささげていた ので、その顔には神にゆだねきった表情があらわれていた。(患難から栄光へ上 巻 42)

ペンテコステの当日、聖霊が注がれたその結果はどうであったろうか。復活された救い主についての喜ばしい知らせは、人の住むところにはどこにでも伝えられた。……主は彼らによってお語りにな……った。(患難から栄光へ上巻 44)

人が聖霊の支配に身をゆだねる時、神はこのように大いなる働きをなさることができるのである。(患難から栄光へ上巻 45)

聖書の教えXIV

11章 三重のメッセージ

2300 年の期間 (ダニエル書 8:14) が終わる数年前、すなわちわたしたちの大祭司としてキリストが天の聖所の至聖所に入られる直前に、キリストが間もなく再臨なさることを期待して、世界的なリバイバルが始まりました。忠実な再臨信徒たちは黙示録 14:6-8 のメッセージを神から自分たちに委ねられたものとして認識していました。キリスト教派の大多数はこの厳粛な準備のメッセージ、すなわち第一天使のメッセージを拒み、こうしてバビロン(混乱)となりましたが、第二天使のメッセージは第三に道を備える警告としての働きをなしました(黙示録14:9-12)。その時以来、神の戒めを含んでいる永遠の福音の真理は、あらゆる民族、国民、国語に宣布されています。キリストの再臨前に最後の教会の集める働きは今行われています。

福音の終わりの働きは、預言の中で、人類のための現代の真理の重要なメッセージを携えた三人の御使たちによってなし遂げられるものとして象徴されています。これらの御使たちは、自分たちの委ねられた警告を宣布する神の民(運動)を象徴しています。19世紀の中ごろに始まり、これらのメッセージは、真理か誤謬か最終的な決定をなし、神の裁きの座の前に立つ準備をし、キリストの再臨に備えるようにと男女に呼び求めました。

「黙示録 14章の三天使は、神のメッセージの光を受け入れ、このお方の代理人としてくまなく全地に警告を鳴り響かせるために出て行く民を象徴している」(教会への証 5巻 455, 456)。

第一天使

「永遠の福音」を携えている第一天使のメッセージは、全国民に、神をおそれ、神に栄光を帰せよ、創造主としてこのお方を礼拝せよと呼び求めています(ローマ1:16; マルコ13:10)。それはまた調査審判の時が来たという事実を指し示しています(伝道の書12:13, 14; マタイ12:36; ローマ14:12; ペテロ第一4:5, 17)。多くの人々は、神を忘れて、自分自身が自分の運命の支配者だと感じてい

ます。ですから、彼らの忠誠を自分の造り主へと呼び戻されなければなりません。 自らを喜ばせる代わりに神に従うのは、彼らの責任です。このメッセージははじ めに神に与えられた本来の原則と制度の回復の働きを指し示しています(黙示録 14:6,7; 使徒行伝 3:19-21)。

第二天使

ノアの時代の大洪水の後、神は二度と地を洪水によって滅ぼさないと約束されました。再生を経験していない人類は神の約束を信ぜず、バベルの塔を建て始めましたが、混乱という結果で終わりました(創世記 11:1-9)。クリスチャン時代の最初の幾世紀かの間に、キリスト教と異教の間の妥協が、黙示録 13:1-10に預言されたように法王制の発展へと導きました。黙示録の中で、淫婦の娘たちを連れて、真っ赤な獣の上に乗っている女として表されているバビロンは、神の律法に背を向けたキリスト教を公言するすべての背教した教派によく当てはまる象徴です。第二天使のメッセージはバビロンが第一天使のメッセージを拒んだために生じたバビロンの堕落を告知し、ローマカトリック教会の例にならっているプロテスタント諸教会の堕落を責めています。国家と結合した背信のキリスト教は、忠実な信徒たちの迫害と最終的な危機をもたらすことになります(黙示録 14:8; 黙示録 17:3-6)。

第三天使

第三天使のメッセージは、獣とその像を礼拝すること、また獣の刻印を受けること(故意の日曜日遵守)に対する強い警告です。「法王制は、神の律法を変更しようとした。偶像礼拝を禁じる第二条を律法から除去し、第四条は、七日目のかわりに第一日を安息日として守ることを公認するように変更された。しかし、法王側の人々は、第二条を除去したことを、それは第一条に含まれているから不必要であり、われわれは神がわれわれに理解させたいと望んでおられるとおりに律法を与えたのであると主張する。これは、預言者が預言したところの変更ではない。預言されたその変更は、計画的で故意の変更である。すなわち『彼はまた時と律法とを変えようと望む』。第四条の変更こそ、まさしくこの預言の成就である。これに関して主張できる権威は、ただ教会の権威のみである。ここにおいて、法王権は、公然と自らを神よりも高めているのである」(各時代の大争闘下

巻 166)。

第三天使は終わりの時代に生存している残りの神の民を明らかにしています。 アメリカにおけるプロテスタント主義が、日曜日遵守(偽りの安息日)を強要する ために世俗の権力を求めるとき、その時こそまさに獣の像は造られたのです。そ の時には、すべての人が一方で神の律法への忠誠を示すか、あるいはもう一方 で獣の法令(反キリスト)を受け入れるかを決定するように求められます。そして 神は各個人の選択を重んじられるのです。神は死刑令にもかかわらず、神の戒め とイエスの信仰を守る人々には永遠の命を、そしてご自分に従わない人々には死 をお与えになります(黙示録 14:9-12; 13:11-18)。

「第三天使の警告は、『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯……を飲』むと告げている。このメッセージの中にあげられている『獣』、それを礼拝するようにと二つの角を持った獣が強制するところの獣は、黙示録13章の最初の獣、すなわちひょうに似た獣一法王制一のことである」(各時代の大争闘下巻165)。

獣の像

「『獣の像』は、プロテスタント諸教会が自分たちの教義を強制するために公権力の助けを求めるときに起きる背教のプロテスタント教会を表わしている」(各時代の大争闘下巻165)。

「プロテスタントだと公言する世界は不法の者と同盟を組むようになる。そして教会と世は堕落のうちに調和するのである」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント 17 巻 975)。

「自分の先祖たちが反対したがゆえに最も激しい迫害を耐えた偽りの宗教を維持するために、プロテスタントの諸教会が世俗の権力と結合するとき、国家が法令を実施し、教会の制度を維持するために自分の権力を用いるとき、そのときこそ、プロテスタントアメリカは法王制への獣を造ったのである。そしてそこには国家的な背教が生じ、ついに国家的な破滅へ至る」(同上 976)。

獣の刻印

「神のしるし、または印は、第七日目の安息日、すなわち主の創造の記念日の 遵守のうちに明らかにされている。……獣の刻印はこの反対である。すなわち、 週の第一日目の遵守である。この印は、神の権威を認める人々を法王制の権力 の至上権を認める人々から区別する」(教会への証8巻117)。

「ヨハネは週の第一日目を守ることによって獣とその像に礼拝する人々とは区別された人々を見るようにと呼びかけられた。週の第一日目の遵守こそ、獣の刻印である」(SDA パイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント 17 巻 979)。

第三天使は、次の三つの主だった特徴に従って残りの神の民を特定しています。

- (a) 大いなる患難の下で、発達する聖徒の忍耐 (ローマ 5:3, 4; ヤコブ 1:3; ペテロ第一 1:7)。
- (b) 第七日目の安息日遵守を含んだ神の戒めを守ること。これは生ける神の印であり、かつ神とその民の間の特別なしるしである (エゼキエル 20:20; マタイ5:17-20; ルカ 16:17; ヤコブ 2:10-12)。
- (c) イエスの信仰をかかげること。これは、永遠の福音であり、かつイエスを自分の個人的な救い主として受け入れる人々を完全に救って下さるこのお方の力を信じる信仰である (ガラテヤ 2:20; ヘブル 7:25; ヨハネ第一 1:9; 2:1-6; エペソ 2:8)。

「第三天使のメッセージに属するイエスの信仰を構成しているものは何であろうか。イエスはわたしたちの罪を許す救い主となられるために、わたしたちの罪を負うお方となられた。このお方はわたしたちが当然受けるべき取り扱いを受けられた。このお方はわたしたちがご自分の義を受けることができるように、わたしたちの世に来られ、わたしたちの罪を引き受けられた。そしてわたしたちを充分に完全にあますことなく救われるキリストの能力を信じる信仰が、イエスの信仰である」(セレクテッド・メッセージ3巻172)。

「第一、第二、第三天使のメッセージの宣布が霊感のみ言葉によって位置づけられている。一本の杭もくぎも動かしてはならない。これらのメッセージの位置を変えることは、旧約を新約に変えるのと同様に、いかなる人間の権威にも許されていない。旧約は比喩や象徴における福音である。新約は実体である。一方は他方と同様に不可欠である。旧約はキリストの唇からの教訓を提示し、これらの教訓は何もその力を失ってはいない。

第一と第二のメッセージは 1843 年と 1844 年に与えられた。そしてわたした ちは今第三の宣布の下にいる。しかし、三つ全てのメッセージがなお宣布される べきである。真理を求めている人々にこれらが繰り返されることは、これまでと同様今も重要不可欠である。わたしたちはペンと声によって、その順番と、わたしたちに第三天使のメッセージをもたらした預言の適応性を示しながら、宣言をなり響かせなければならない。第一と第二がなければ第三はないのである」(同上2巻104,105)。

「預言は、第一天使が『あらゆる国民、部族、国語、民族』に布告すると言っている。同じ三重のメッセージの一部である第三天使の警告は、同じ範囲に及ぶのである。預言の中で、それは、中空を飛ぶ天使によって大声で宣言されるものとして表わされている。そして、それは世界の注目をひくのである」(各時代の大争闘下巻 171, 172)。

「黙示録 14章の三天使は、中空を飛んでいるものとして表されており、第一、第二、第三天使のメッセージを宣布する人々の働きを象徴している。みな互いに関連している。教会にとって非常に大きな意味を持ち、宗教界からこれほどの激しい反対を呼び覚ましてきたこれらの偉大なメッセージの不変にして永遠の真理の証拠は、消滅していない。サタンは絶えずこれらのメッセージに影を落とそうと努めている。それによって神の民がその重要性と時と場所をはっきりと識別することがないようにするためである。しかし、時が続く限り、それらは生きており、わたしたちの宗教経験の上にその宗教的な力を発揮するのである」(教会への証6巻17,18)。

「『このメッセージを本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、このメッセージをどう受け入れるかにかかっている』」(初代文集 420)。

今日のわたしの生涯

My Life Today



2月「御霊に満たされた生涯」

2月1日 聖霊の賜物

神の霊の賜物

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それ(彼)は真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。」(ヨハネ 14:16, 17)

ユダヤの時代において、神の霊の感化は際立った方法で見られたが、完全ではなかった。長年の間、ご自分の霊を分け与えられるという、神の約束の成就のために祈りが捧げられてきた。そして、これらの熱心な懇願はひとつとして忘れられてはいなかった。

キリストは、地上から昇天されたとき、ご自分を信じてきた者たち、またご自分を信じるようになる者たちに賜物を与えようと決心しておられた。仲保のみ座に向かわれるこのお方の昇天を記念し、飾るほど豊かないかなる賜物を与えることができるであろうか。それは、このお方の偉大さとその王としての地位にふさわしいものでなければならない。キリストはご自分の代理となられるお方、すなわち第三位の神をお与えになることを決めておられた。この賜物に優るものはあり得なかった。このお方は一つ賜物の中にすべてをお与えになるのであった。それゆえに、改心させ、啓発し、聖化させる力である神の御霊を、このお方は寄付して下さるのであった。……それはあたかも長年にわたり差し止められていたものが今や教会に注ぎだされているかのように、満ち満ちた力をもって臨んだ。……

信者たちは再改心した。罪人たちはクリスチャンたちと一つになって高価な真珠を探し求めた。……どのクリスチャンも自分の兄弟のうちに善意と愛の神に似たみかたちを見た。一つの関心事が勝って、一つの目的が他のすべてを呑み込んだ。すべての鼓動が健全に調和して脈を打った。信者たちのただ一つの熱望は、だれがキリストのご品性に似たかたちを最も完全にあらわすことができるか、だれがキリストの王国を拡張するために最大に働けるかを見ることであった。(パイプル・エコ-1899年2月27日)

聖霊は人が受けることのできる最も貴重な宝として送られた。(パイブル・エコー 1899 年 5 月 22 日)

聖霊の賜物 2月2日

ひとりびとりに賜物が与えられている

「しかし、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、 恵みが与えられている。」(エペソ 4:7)

キリストが教会に託されたタラントというのは、特に、聖霊によって与えられるたまものと祝福のことである。「すなわち、ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、ほかの人には、同じ御霊によって知識の言、またほかの人には、同じ御霊によって信仰、またほかの人には、一つの御霊によっていやしの賜物、またほかの人には力あるわざ、またほかの人には預言、またほかの人には霊を見わける力、またほかの人には種々の異言、またほかの人には異言を解く力が与えられている。すべてこれらのものは、一つの同じ御霊の働きであって、御霊は思いのままに、それらを各自に分け与えられるのである」。だれもが同じ賜物を与えられるわけではないが、主のしもべにはだれにでも何かの霊の賜物が約束されているのである。

キリストは、弟子たちを去るに臨んで、「彼らに息を吹きかけて仰せになった、『聖霊を受けよ』」。また、「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る」と言われた。……「キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みがあたえられている」「御霊は思いのままに、それらを各自に分け与えられたのである」。賜物は、すでに、キリストにあってわたしたちのものであるが、それを実際に受けることは、神の霊をわたしたちが受けるか否かにかかっている。(キリストの実物教訓 301, 302)

神は、わたしたちの前にある働きを、自分自身の力でするようにとは仰せにならない。神は人間の資源では対応できないあらゆる危急のために神聖な援助を備えてこられた。このお方はすべての難局において助け、わたしたちの希望と保証を強め、またわたしたちの思いを照らし、心を清めるために、聖霊をお与えになる。……自己を脇に置き、自分の心に働かれる聖霊のために場所をあけ、全く神に捧げた生活を送る者の有用性に限りはない。……キリストは御霊による天来の感化が、終りの時までご自分に従う者たちと共にあると宣言なさった。(教会への証8巻19~21)

2月3日 聖霊の賜物

聖徒たちの完全のために

「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ4:11~13)

これらすべての賜物は活用されているべきである。忠実な働き人はだれでも、聖徒たちをととのえる (完成させる) ために奉仕する。……すべての人になすべきことがある。真理を信じるひとりびとりの魂は、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください」と言って、自分の分と立場に立つべきである。……各人に他の人々のためになすべきことを何か与えなさい。キリストの恵みを受ける者としてキリストのために働く義務の下にいるということをすべての人が悟るよう助けなさい。そしてすべての者がどのように働くか教えを受けられるようにしなさい。特別に、新しく信仰に入った者たちは神と共に働く者になるよう教育されるべきである。もし仕事に取り掛かるなら、落胆した者はすぐ自分の落胆を忘れ、弱い者は強くなり、無知な者は知的になり、すべての者がキリストのうちにあるがままの真理を提示する用意ができる。彼らはご自分に来るすべての者を教うと約束されたお方のうちに、間違いのない助け手を見出す。(教会への証6巻48~50)

聖霊の感化は、働きが正しく調整され、それによって働きがすべての分野において着実に進められるために必要とされている。(同上 291)

現代の真理は福音全体を包含する。正しく提示されると、それは人のうちに神の恵みが心に及ぼす力の証拠そのものである変化を起こす。それは完全な働きを成し遂げ、完全な人に発達させるのである。(同上)

神はご自分が完全であると同様にわたしたちも完全になるように一と仰せられる。神が宇宙にとって光と祝福の中心であられるように、わたしたちは、わたしたちの小さな範囲でそうならなければならない。わたしたちは神の愛の光がわたしたちを照らし、その輝きを反映するのでなければ、自分では何も持っていない……神が神の領域で完全であられるように、わたしたちは自分の領域で完全な者となることができる。(祝福の山95)

聖霊の賜物 2月4日

聖徒たちの一致のために

「さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。」 (エペソ $4:1\sim 3)$

天の星はすべて法則の下にあり、互いに神の御旨を行うために影響を与え、 その活動を支配する法則に共通の服従を示す。そして、主の働きが健全に着実 に前進するために、その民は互いに引き寄せられなければならない。

クリスチャンだと主張するある人々の発作的できまぐれな動きは、強くはあるが訓練されていない馬によってよく表されている。ある者が前に引くとき、他の者は後ろに引き、そして彼らの主人の声によって、ある者は前に突進し、他の者は微動だにしない。もし人々が現代の偉大で崇高な働きに一致して行動しないならば、混乱が起こるであろう。……もし人々がキリストのくびきを負うならば、彼らは離れて引くことはあり得ず、キリストと共に引くのである。……

預言者にとって、輪の中の輪や、それらに連結していた生き物は、すべてが入り組んでいて、説明できないように思われた。ところが無限の知恵あるお方のみ手が輪の間に見え、その働きの結果は完全な秩序である。神のみ手に誘導されるすべての輪は、他のすべての輪と完全な調和を保って働くのである。(世界総会冊子 1909 年 5 月 31 日)

御霊の感化によって、ほとんどの不和は調和へと導かれることができる。無我の精神が神の民を堅く優しい絆で東ねるべきである。信者の精力が御霊の支配下にあり、あらゆる源から善を集め、自己を教育し訓練し律するとき、教会の中には甚大な力がある。このようにして強力な組織が神に捧げられると、神はそれを通して罪人の改心のために働くことがおできになる。このように天と地は結合し、すべての神聖な代理者たちは人の器と協力するのである。(サインズ・オブ・タイムズ1906年12月19日)

2月5日 聖霊の賜物

神の預言者たちによって示された真理

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス 3:7)

罪がこの世にはいる前には、アダムは創造主と分け隔てのない交わりをしていた。しかし人間が罪を犯して神から離れてからは、人類はこの尊い特権から切り離されてしまった。しかし、救済の計画によって、地上の住民がなお天とのつながりを保つ道が開かれた。神は、聖霊によって人間と交わり、選ばれたしもべたちの啓示によって天来の光を世にお与えになった。人々は、「聖霊に感じ、神によって語った」のである(ペテロ第二1:21)。……

限りなぎおかたである神は、聖霊によって、ご自分のしもべたちの心と頭に 光をお与えになった。神は、夢とまぼろしと象徴をお与えになった。そして、こ のようにして真理を啓示された人々は、その思想を人間のことばであらわしたの である。(各時代の大争闘上巻(序) 1, 2)

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない」(アモス 3:7)。

ご自分のみ摂理のうちに、主は様々な方法でご自分の民を教え、警告するのがふさわしいと思われた。直接の命令によって、聖なる書物によって、預言の霊によって、このお方は彼らにご自分の御旨を知らされた。(教会への証 4 巻 12、13)

古代、神は預言者たちと使徒たちの口によって人々に語られた。今日このお方はご自分の御霊の証によって彼らに語られる。今神がご自分の民に、ご自分のみ旨と、民が進むよう望んでおられる道に関して教えておられるほど、熱心にご自分の民をお教えになった時はかつてなかった。(同上 147, 148)

人類のための神の永遠のご計画を明らかにした預言者たちが語った勧告と 警告の言葉は、神のぶどう畑の管理者である今日の地上の教会にとって、特別 に価値のあるものである。預言者たちの教えの中に、失われた人類に対する神 の愛と、彼らの救いに対する神のご計画が明らかにあらわされている。(国と指 導者上巻(序)7) 聖霊の賜物 2月6日

預言の霊ーわたしのための賜物

「イエスのあかしは、すなわち預言の霊である。」 (黙示録 19:10)

神は、ご自分の真理を、人間を通して世にお伝えになった。そしてご自分の聖霊によって、人々に、この働きをなす資格と能力をお与えになった。神は人を導いて、語るべきことと書くべきこととをえらばせられた。宝は土の器である人間に託されたが、しかしその宝が天来のものであることにはかわりがない。あかしは、人間のことばという不完全な表現を通して伝えられたが、しかしそれは神のあかしである。神を信ずる従順な子らは、その中に、恵みと誠とに満ちた、神の力の栄光を見るのである。

神は、みことばを通して、救いに必要な知識を人間にお与えになった。我々は、聖書を、神のみこころについての権威ある、まちがいのない啓示として受けとらねばならない。……(各時代の大争闘上巻(序)3)

真理は、いろいろな人によってあらわされているので、いろいろな角度から示されている。ある記者は問題のある一面に強い感動を受けている。彼は、自分の経験や自分の知覚力、認識力に合う点を把握している。またある者は、これと異なった一面を把握している。そしておのおのは、聖霊のみちびきのもとに、自分の心に最も力強く訴えるものを示しているのである。すなわち、それぞれに真理の異なった一面をもっているが、しかしそこには、全体を通じて完全な調和がみられるのである。このようにしてあらわされた真理は、結合して完全な全体を構成し、人生のあらゆる境遇と経験の中にある人々の要求にこたえるのに適したものとなっているのである。……

しかし、神がみことばを通してみこころを人間に啓示されたからといって、 聖霊のたえざる臨在と導きが不要になったわけではない。それどころか、聖霊 は、みことばを神のしもべたちに開き、その教えを解明して実行に移させるため に、救い主によって約束されたのである。しかも、聖書に霊感を与えたのは聖霊 だったのであるから、聖霊の教えがみことばの教えと相反するということはあり得 ないのである。」(各時代の大争闘上巻(序)2~4) 2月7日 聖霊の賜物

信じ、そして成功する

「彼らは朝早く起きてテコアの野に出て行った。その出て行くとき、ヨシャパテは立って言った、『ユダの人々およびエルサレムの民よ、わたしに聞きなさい。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう』。」(歴代志下20:20)

預言の光は、魂の導きのためにまだ燃えていて、「これが道だ、これに歩め」と言っている。それは、正しい者の行く道を推奨し、不義なる者の道を悔い改めと改心へと導くために照らしている。その手段を通して罪の働きは譴責され、悪は暴露される。それは過去、現在、未来に光を反射させるその義務の遂行における漸進的である。(原稿 17、1908 年)

もし光を受けた者が主の証を感謝し尊重するなら、彼らは宗教生活を新しい光のうちに見るであろう。彼らは罪を悟らされる。彼らは今まで理解したことのなかった神秘を解く鍵を見いだす。かつまた神が益するためにお与えになった尊い事柄を彼らはつかみ、暗闇の王国から神の驚くべきみ光に移されるのである。(手紙 71、1903 年)

警告を軽蔑する者は自己欺瞞になる盲目の中に取り残される。しかしそれに注意を払い、必要な恵みを得るために、自分たちから自分の罪を分離する働きに熱心に取りかかる者は、愛する救い主が入ってこられ、彼らと住むことがおできになるように、自分たちの心の戸を開いているであろう。(教会への証3巻257)

神は、もし選ぶなら、すべての人が気高く幸福になることができる備えをしてくださった。充分な光がこの時代に与えられているが、それは何がわたしたちの義務と特権であるかを学び、尊く厳粛な真理をその単純さと力のうちに楽しむことができるためである。

わたしたちは自分たちの上に輝いている光に対してのみ責任がある。神の戒めとイエスのあかしがわたしたちを試している。もしわたしたちが忠実で従順なら、神はわたしたちを喜ばれ、わたしたちをご自身の選ばれた者、すなわち特別な民として祝福してくださる。完全な信仰と完全な愛と従順が満ちて、キリストに従う者たちの心の中に働いているとき、彼らは力強い感化を持つようになる。(同上2巻693,694)

聖霊の働き 2月8日

わたしに罪を悟らせるために

「それ(彼)がきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。 罪についてと言ったのは、彼らがわたしを信じないからである。」(ヨハネ 16:8, 9)

聖霊の働きはキリストのみことばに明細に記されている。「それ(彼)がきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう」。罪を自覚させるものは聖霊である。もし罪人が御霊の生きかえらせる感化力に反応するならば、彼は改心へと導かれて、神の要求に従うことの重大さに目覚めるであろう。(患難から栄光へ上巻 48)

サウロは聖霊の罪を認めさせる力に全く屈服したとき、自分の人生の過ちを知り、神の律法の広範囲に及ぶ要求を認めた。自分の良い働きによって義とされると確信していた高慢なパリサイ人であった彼は、いま謙遜に幼な子のように単純な気持ちで神のみ前にぬかずき、自己の無価値さを告白し、十字架にかけられ、よみがえられた救い主の功績を、自分のために懇願した。サウロはみ父やみ子との完全な一致と霊的な交わりに入りたいと思い、自分がゆるされて、受け入れられるようにと切に願って、恵みのみ座に熱心な祈りをささげた。

このパリサイ人の後悔の祈りはむだにはならなかった。彼の心に奥深くあった思想と感情は、神の恵みによって変えられた。彼のより高貴な才能は神の永遠の目的に調和していった。キリストとその義は、サウロにとって全世界よりも価値のあるものとなった。サウロの改宗は、罪人たちに罪を悟らせる、聖霊の不思議な力を示す著しい証拠である。(同上 124, 125)

サタンの支配が抑制され服従させられるのは、聖霊の力強い働きを通してである。罪を確信させ人間の同意によって魂からそれを追い出すのは聖霊である。 ……キリストの功績によって、人は自分の存在の最も高潔な力を働かせ、自分の魂から罪を追い出すことができる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1893 年 4 月 25 日)

2月9日 聖霊の働き

わたしの理解力を啓発するために

「どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていだいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、」(エペソ1:17, 18)

聖霊によって新たにされた思いのために、神聖な美と天の光が聖なるページから輝く。地上の思いにとっては不毛の荒野であるものが、霊的な思いには生きた流れの地となる。(サインズ・オブ・タイムズ1906 年 10 月 10 日)

聖霊だけが、理解しやすい事柄の重要性を感じさせ、あるいは理解の困難なものを曲解しないように守る。われわれがみ言葉の美しさに心をひかれ、その警告に戒められ、み約束によって活気づけられ、力づけられるように、心を備えさせて神のみ言葉を理解させるのが、天使たちの働きである。われわれは詩篇記者の「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」という訴えを、自分のものとしなければならない。(各時代の大争闘下巻367)

神の聖なる、教育する御霊はこのお方の御言のうちにある。光、すなわち 新しく尊い光がどのページからも輝き出ている。そこに真理が明らかにされてお り、言葉や文章は彼らに語っておられる神のみ声として明るくその場にふさわしい ものとされる。

わたしたちは聖霊を、わたしたちを啓発するお方として認識する必要がある。 その御霊は子供たちに話しかけ、彼らに御言の宝と美しさを明らかにすることを 喜ばれる。わたしたちの大教師によって語られたみ約束は、子供の感覚を捉え、 神聖な霊の力で子供の魂を元気づける。理解の早い知能に神の事柄との親しみ が増し、それが敵の誘惑に対する防壁となるのである。……天来の愛のひらめき は、霊感として子供たちの心に下る。(両親、教師、生徒への勧告 171, 172) 聖霊の働き 2月10日

わたしにことごとく思い起こさせるため

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ14:26)

キリストは死からよみがえられ、開かれた墓に対して「わたしはよみがえりであり、命である」と宣言された。このお方はわたしたちにすべてのことを思い起こさせるためにご自分の御霊をこの世界に送って下さった。このお方のみ力の奇跡によって、このお方はご自分の記された御言を、各時代を通じて保存してこられた。そうであれば、わたしたちはこの御言をわたしたちの変わらぬ研究対象とし、そこからわたしたちのための神のご目的を学ばないであろうか。(サインズ・オブ・タイム ズ1906 年 3 月 28 日)

キリストのしもべたちは裁判にかけられた時に陳述することばを前もって準備しておくのではなかった。彼らの準備は、日々に神のみことばのとうとい真理をたくわえ、祈りを通して信仰を強めることによってなされるのであった。彼らが裁判に呼び出された時に、聖霊は必要な真理を彼らに思い出させてくださるのであった。

神と、神がおつかわしになったイエス・キリストとを知るために日々熱心に努力するときに、魂には力と能率とが与えられる。聖書を熱心に研究することによって得られた知識は、ちょうどよい時にぱっと思い出される。しかしもしだれでもキリストのみことばを知ることを怠っていたら、またもし彼らが試みの時にキリストの恵みの力をためしていなかったら、彼らは、聖霊がキリストのみことばを思い出させてくださることを、期待することはできなかった。(各時代の希望中巻 88)

キリストは、わたしたちが強くなるために、あらゆる備えをしてくださった。 キリストはわたしたちにご自分の聖霊をお与えになった。その任務はキリストがなさったすべての約束をわたしたちに思い起させることであるが、それはわたしたちが平安と罪のゆるしの幸福な自覚を持つことができるためである。もしわたしたちが救い主に目を留め続けてこのお方の力に信頼し続けてさえいれば、わたしたちは安心感に満たされる。なぜならキリストの義がわたしたちの義となるからである。(レビュー・アンド・ヘラルド1908年10月1日) 2月11日 聖霊の働き

わたしの品性を変えるために

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(コリント第二 3:18)

心が清くされるのは御霊の働きによってである。御霊によって信者は神の性質にあずかる者となる。キリストは、あらゆる先天的また後天的悪への傾向を克服し、また彼の教会にご自身の品性を印象づけるために、聖霊を天来の力としてお与えになった。……

神の御霊が心を占めるとき、それは生活を変える。罪深い思いは捨て去られ、 悪い行為は捨てられる。愛、謙遜、平和が、憤り、恨み、争いに取って代わる。 喜びが悲しみに取って代わり、そして表情は天の喜びを反映する。だれも重荷を 持ち上げる手、天の宮廷から降りてくる光を見守ることはない。魂が信仰によっ て神に自らを捧げるときに祝福がもたらされる。その時、人間の目が見ることの できない力が、神のみかたちのうちに新しく造られたものとする。

聖霊は、魂の中の霊的な生命の呼吸である。御霊を与えるということは、 キリストの命を与えるということである。それは受ける者にキリストの属性を吹き 込む。……

神から来る宗教は、神に導く唯一の宗教である。このお方に正しく仕えるために、わたしたちは神の御霊によって生まれなければならない。これは心を純潔にし、思いを再び新しくして、わたしたちに神を知り愛するための新しい能力を与える。それによってわたしたちはこのお方のすべてのご要求に喜んで従うようになる。これが真の礼拝であり、聖霊の働きの実である。御霊によってすべてのまじめな祈りが書きとめられ、そのような祈りは神に受け入れられる。魂が神を求めて手を伸ばすところはどこにでも御霊の働きがあらわされ、神はご自身をその魂に現される。このお方はでを登け入れ、彼らをご自分のむすこ娘にするのを待っておられる。(レビュー・アンド・ペラトド 1908 年 11 月 19 日)

聖霊の働き 2月12日

上からの力をわたしに与えるために

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。(使徒行伝 1:8)

聖霊はキリストを愛する者に下るのであった。これによって彼らは、自分たちの頭なるお方の栄光のうちに、またそれを通して、自分たちの使命を果たすために必要なすべての才能を受ける資格が与えられるのであった。生命を与えるお方はご自分の手に死の鍵だけでなく、豊かな祝福の全天を持っておられた。天と地にあるすべての力はこのお方に与えられていた。そして天の宮廷でご自分の場所についておられるので、このお方はご自分を受け入れるすべての者にこれらの祝福を分け与えることがおできになった。教会は御霊の力によってバプテスマを受けた。弟子たちは出て行ってキリストを宣布するのにふさわしい者とされた。まずはエルサレム、すなわち正当な王を辱める恥辱の働きが行われた場所で、それから地の果てまでも出ていくのであった。キリストの仲保の王国におけるこのお方の即位式の証拠が与えられた。(パイプル・エコー1899年5月22日)

神は、ご自分の恩恵を受ける者たちをその力の証人にさせようと望んでおられる。神のみこころを痛めるような生活を送っていた人たちでも神は快く受け入れてくださる。彼らが悔い改めるときに、神は、ご自分の聖なるみたまをさずけ、彼らを高い責任の地位に置き、神の限りないあわれみをのべ伝えるために彼らを不忠実な者たちの陣営につかわされる。(各時代の希望下巻 375, 376)

主から即座の協力を受けるためにこのお方に向き直るすべての魂のために神 ご自身が備えをしておられる。聖霊はこのお方の力となる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1898 年 3 月 22 日)

わたしたちに必要なのは御霊の力である。これは1分間のうちにわたしたちが語ることによって成し得るより大きなことをなすことができる。(原稿71、1903年)

へりくだって神に仕え、このお方の導きと恵みを期待して待つ者だけに御霊が与えられる。神の力は、彼らの要求と受け入れを待っている。この約束された祝福は、信仰によって求められるとき、他のすべての祝福を伴っているのである。(レピュー・アンド・ヘラルド 1908 年 11 月 19 日)

2月13日 聖霊の働き

敵に向かって旗を揚げるために

「敵が洪水のように押し寄せるときに、主の霊はそれに向かって旗を掲げられる」 (イザヤ 59:19 英語訳)

イエスはわたしたちの弱さを助け、力強い慰めを与えるために、大変な緊急 事態に大いに聖霊を与えて下さる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1894 年 6 月 26 日)

キリストの学校で常に学んでいる者たちは、彼らの道の平衡を保って進むことができる。そして彼らの均衡を崩そうとしているサタンの努力は著しくくじかれるのである。誘惑は罪ではない。イエスは聖なる純潔なお方であられたが、わたしたちと同じようにあらゆる点において誘惑に会われた。すなわちその誘惑は人が耐えるように要求されることのない強さと力を持ったものであった。抵抗に成功されたことによって、このお方は御足の跡に従うべき輝かしい模範をわたしたちに残された。もしわたしたちに自信や自己義があるならば、誘惑の力の下に倒れるがままにされるであろう。しかしわたしたちがイエスを見つめ、このお方に信頼し、戦いの場で敵に打ち勝つ力をわたしたちの助け手に呼び求めるなら、このお方はすべての誘惑に逃れの道を備えてくださる。サタンが洪水のように押し寄せるとき、わたしたちは御霊の剣を持って、彼の誘惑に立ち向かい、そしてイエスはわたしたちの助け主となり、彼に向かってわたしたちのために旗を揚げてくださる。(教会への証5巻426)

勝利のために苦闘しているすべての人のために聖霊が約束されている。御霊は完全な力強さのうちに人間に超自然的な力を与え、神の王国の奥義に無知な者を教えるのである。聖霊が大いなる助け主となられるとは、すばらしい約束である。……与えられた聖霊は、このお方の弟子たち、使徒たちが、あらゆる種類の偶像崇拝にも立ち向かって堅く立って、主を、すなわちただこのお方だけを高めることを可能にしたのであった。(原稿1、1892年)

「神は聖霊によっていたるところに臨在し、聖霊と天使の働きを通して人の子に奉仕をなさる。」(ミニストリー・オブ・・ヒーリング 391)

聖霊の働き 2月14日

わたしのうちにあるキリストに 栄光を得させるために

「御霊はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである。」(ヨハネ 16:14)

これらのみ言葉のうちに、キリストは、聖霊の最高の働きを宣言しておられる。御霊はキリストを最高の尊敬の対象とすることによってキリストに栄光を帰し、救い主はこの変化が心のうちになされる人の楽しみ喜びとなる。……

神に対する悔い改めと、イエス・キリストを信じる信仰は、御霊の恵みの新たにする力の実である。悔い改めは、魂が世にキリストのみかたちを反映させようとする段階を表している。(手紙 155、1902 年)

キリストは彼らにご自身の霊の息吹き、すなわちご自身のいのちをお与えになる。聖霊は心と思いに働くためにその最高の能力をそそがれる。神の恵みは彼らの能力を幾倍にも大きくし、神の性質のあらゆる完全さが救霊の働きにおいて彼らの助けとして与えられる。キリストとの協力によって、彼らはキリストのうちにあって完全であり、人間的な弱さのうちにあっても全能者の行為をなすことができる。(各時代の希望下巻 377, 378)

キリストを着て、もっと完全に自分がキリストに似る者になることが、クリスチャンの生涯の働きとなるべきである。神のむすこ娘たちは、わたしたちの型であられるキリストに似ることにおいて進歩すべきである。日毎に、彼らはこのお方の栄光をみつめ、その比類のない卓越さを熟考するべきである。(牧師への証122)

ああ、聖霊のバプテスマがあなたの上に降り、あなたが神の御霊を吹きこまれるなら! そうすればあなたは日毎に、ますますキリストのみかたちに一致し、あなたの生活のすべての行動において「これはわたしの主人であるお方に栄光を帰すだろうか」というのが問いとなる。善行におけるたゆまない忍耐により、あなたは主の栄光と誉れを求め、不死の賜物を受けるようになる。(レピュー・アンド・ヘラルド1892年5月10日)

愛

「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、忍耐、寛容、善意、信仰、柔和、自 制であって、これらを否定する律法はない。」(ガラテヤ 5:22、23 英語訳)

信じるすべての者にとって、このお方は神のパラダイスにおける生命の木のようである。その枝は、このお方がわたしたちのために買われた祝福がわたしたちの手の届くところにおかれるようと、この世界に届いている。……このお方はわたしたちに慰め主、すなわち聖霊を与えて下さった。聖霊はわたしたちに生命の木から尊い実をわたしたちに与えてくださる。この木からわたしたちは取って食べることができ、そしてわたしたちは他の人々も食べることができるように、彼らを命の木へ導くことができる。(サインズ・オブ・タイムズ1896 年 10 月 22 日)

神を愛する人は、昼も夜も神のおきてを瞑想する。彼は時が良くても悪くてもたゆまない。彼は、ぶどうの木に命のつながりをもった枝に実をつける。彼は機会があると善を行う。彼は善いことを行い、そしてどこでも、いつでも、すべての場所で、彼は、神のために働く機会を見い出すのである。彼は主の常緑樹の一人である。そして彼は、自分の行く所どこへでも良い香りを伴う。健全な雰囲気が彼の魂を囲んでいる。彼の秩序のある生活の美しさと、信心深い会話は他の人々に信仰と希望と勇気を吹き込む。これが実際のキリスト教である。常緑樹であるよう努めなさい。柔和で穏やかな精神という飾りを身につけなさい。これこそ神のみまえにきわめて尊いものである。愛、喜び、平安、忍耐、寛容という恵みを大切にしなさい。これがクリスチャンの木の実である。流れのほとりに植えられて、それはいつも時が来ると実を結ぶ。(ルビュー・アンド・ヘラルド 1897 年8月24日)

もしわたしたちが自分の魂のうちに、キリストの愛を持っているなら、ほかのすべての恵み、すなわち喜び、平安、忍耐、寛容、善意、信仰、柔和、自制を持つのは、わたしたちにとって自然なこととなる。……

キリストの愛が心のうちで大事にされるとき……このお方のご臨在が感じられる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1887 年 1 月 4 日)

御霊の実 2月16日

喜びと平安

「どうか、望みの神が、信仰から来るあらゆる喜びと平安とを、あなたがたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを、望みにあふれさせて下さるように。」(ローマ15:13)

主はそのみ言葉に従うすべての魂にご自分の喜び、ご自分の平安、ご自分の絶えざる守りの力があることを定められた。このような男女はつねに、祈りでこのお方のみ前にひざまずくときばかりでなく、彼らが生活上の義務に取り組むときにもこのお方のそば近くにおかれる。このお方は彼らのためにご自身と共に住む場所を備えて下さった。そこでは生活がすべての粗雑さと、すべての醜さから清められている。このお方とのこうした破られることのない交わりによって、彼らは自分たちの生涯の働きにおいてこのお方の共労者とされるのである。(レピュー・アンド・ヘラルド 1900 年 10 月 23 日)

神をそのみ言葉通りに受け入れる者が持っている平安と喜びを言葉は描写することができない。試練が彼を当惑させることなく、軽蔑が彼をいらだたせることもない。自己は十字架につけられている。日毎に彼の義務はますます重くなり、彼の誘惑は強くなり、彼の試練は厳しくなるかもしれないが、彼はたじろがない。なぜなら、彼は自分が必要としているだけの力を受けているからである。(ユース・インストラクター 1902 年 6 月 26 日)

イエスの足下で学んでいる者は、たしかに自分たちの態度と会話によってキリストのご品性の実例となる。……彼らの経験は、大騒ぎや興奮ではなく、むしろ和らげられた敬虔な喜びで特徴づけられている。彼らのキリストへの愛は、静かで平安でありながら、なおすべてを支配する力である。内住してくださる救い主の光と愛がすべての言葉や行動に表わされる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1882 年 5月 30 日)

祈りに答えて神の祝福が与えられ、他の人々が一歩部屋に足を踏み入れるや否や「主がここにおられる!」と叫ぶことが時々にあった。一言も言葉が発せられるわけではないが、神の聖なるご臨在の祝福された感化力がはっきりと感じられるのであった。イエス・キリストから来る喜びがそこにあった。そして、この意味において、主は、まさにエルサレムの町を歩いておられたときや、二階の広間に弟子たちがいたところに姿を表わされて「平安あれ」と仰せになったときと同じように、その部屋におられたのである。(レピュー・アンド・ヘラルド1887年1月4日)

2月17日 御霊の実

寛容

「更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべて の力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び」(コロサイ1:11)

愛はキリストの王国の律法である。主は、だれもが高い標準に到達するようにと召しておられる。このお方の民の生活は、愛と柔和と寛容を表わすべきである。寛容はあることを、しかり、多くのことを、言葉や行動で報復しようとすることなく耐え忍ぶ。(手紙 185、1905 年)

「寛容」は、無礼への忍耐、すなわち長く忍ぶことである。もし、あなたが寛容であれば、あなたは自分が知っていると思う兄弟の間違いや過ちを他人に伝えはしない。あなたは彼を助け救おうと努める。なぜなら、彼はキリストの血によって買い取られたからである。「彼とふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる」。「兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい」。寛容であるということは、陰気であったり、悲しんだり、不機嫌であったり、心がかたくなであったりすることではなく、ちょうどその反対である。(レピュー・アンド・ヘラルド 1886 年 11 月 16 日)

すべての人と平和に過ごすよう努めなさい。そして、あなたの魂を囲む雰囲気が気持ちよく、芳しいものとなるようにしなさい。主は語られるすべての浅はかな言葉をお聞きになる。もし、あなたが利己的な人間の性質に対して戦うならば、先天的また後天的悪へ向かう傾向に勝利する働きにおいて着実に前進するのである。忍耐と寛容、そして辛抱によって、あなたは多くのことを成し遂げる。だれか他の人の浅はかな話によってあなたが辱められることはないということを覚えていなさい。そうではなく、あなたが浅はかに答えるとき、あなたは自分が獲得することができたはずの勝利を失うのである。自分の言葉に十分気をつけなさい。(手紙 2、1903 年)

忍耐と無我は、キリストにあって新しい生涯を生きるために新たに生まれた 人の言葉と行動を特徴づける。(ユース・インストラクター 1903 年 4 月 9 日) 御霊の実 2月18日

慈愛

「あなたはその救の盾をわたしに与え、あなたの助けは、わたしを大いなる者とされた。」(サムエル下 22:36)

あなたは、キリストの柔和と慈愛と愛において、このお方を代表すべきである。(福音宣伝者 372)

真の慈愛は、神の御目に大変な価値を持った宝石である。(教会への証3巻536)

わたしたちは、慈愛の精神が欠乏している。わたしたちは、これなしに家族の輪において正しく生きることができない。自分の子供たちを正しく治めるために、わたしたちは慈愛と柔和と寛容の精神を表わさなければならない。わたしたちは、あら捜しをし、いらいらした、口やかましい精神を持ちたくはない。もし、わたしたちが、彼らに慈愛の精神を持つように教えたければ、自分たち自身が慈愛の精神を持たなければならない。……もし、彼らが自分たちに対して愛の精神を表わすことを望むならば、わたしたちは慈愛に満ちた愛する精神を彼らに対して表わさなければならない。しかし、同時に、両親の側で弱さや無分別な甘やかしの必要はない。母親には堅固さと決意とがなければならない。彼女は岩のように堅く、正しいことからそれてはならない。彼女の律法と規則は、いかなるときにも万難を排して、実行されるべきである。しかし、彼女は、あらゆる慈愛と柔和とをもってこれを行なうことができるのである。……子供たちは、神を畏れる男女に成長するようになる。(レピュー・アンド・ヘラルド1886年12月21日)

家族のだれであっても、他の家族がその感化力や精神の影響を感じないところに自分だけ閉じこもっていることはできない。顔の表情そのものが、良きにつけ悪しきにつけ影響力を持っている。彼の精神、その言葉、その行動、その他人に対する態度は紛れもない。……もし、彼がキリストの愛で満たされているなら、彼は、他の人の気持ちに対して礼儀と、親切、優しい思いやりを表わす。そして、その愛の行動によって、優しい、感謝に満ちた、幸せな気持ちを自分の仲間に伝える。彼がキリストのために生きていることが表れる。……彼は、主ばあなたの慈愛はわたしを大いなる者とされました」と言うことができるようになる。(1-ス・インストラクタ-1893年6月22日)

2月19日 御霊の実

善意

「善人は主の恵みをうけ」(箴言 12:2)

真の善意は、真の偉大さとして、天に認められる。道徳的な愛情の状態が、その人の価値を決定する。人は財産や知性を持っていながら、善意の輝く炎が心の祭壇で燃えたことがないために、価値のない者となることもある。(教会への証2巻305)

善意は人間の性質を変える神の力の結果である。キリストを信じることによって、キリストが贖って下さった堕落した人類は、愛によって働き、すべての汚れから清める信仰を自分のものとすることができる。そのとき、キリストのような特質が表わされる。なぜなら、人は眺めることによって、栄光から栄光へ、すなわち品性から品性へと同じ姿へ変えられるからである。良い実が結ばれる。品性は、神に似た者へとかたどられ、高潔と正直さ、また真の慈善が罪深い人類に向かってあらわされる。(原稿 42、1900 年)

主はすべての人間をテストし、こころみてこられた。主はわたしたちがこの世の生涯において善良な者となり、善を行なうかどうか、またわたしたちに永遠の富を委ね、またわたしたちを王家の一員、すなわち天の王の子供とすることができるかどうかを調べるために試し、こころみようとようとしておられる。(手紙15、1899年)

あなたが善をなし得る機会は無限である。神のみことばを生活の法則とし、その戒めによって行為が支配され、義務を果すことにおいて自分の目的と骨折りを、他人への災いではなく祝福とするとき、わたしたちの努力は成功をもって報いられる。わたしたちは神とつながり、他人に光を伝える器となったのである。わたしたちはイエスの共労者となる栄光を与えられている。イエスの口から「良い忠実なしもべよ、よくやった」とのありがたい祝福を受けるくらい大きな栄誉は他にはない。(青年への使命119)

御霊の実 2月20日

信仰

「義人はその信仰によって生きる。」 (ハバクク 2:4)

ある時彼〔ハバクク〕は、将来のことを瞑想していて次のように言った。「わたしはわたしの見張所に立ち、物見やぐらに身を置き、望み見て、彼がわたしになんと語られるかを見」よう。主は恵み深く彼にお答えになった。「この幻を書き、これを板の上に明らかにしるし、走りながらも、これを読みうるようにせよ。……義人はその信仰によって生きる」。

あの大いなる試練の時代に、ハバククおよびすべての聖徒たちとすべての 義人たちを力づけた信仰は、今日、神の民を支えるのと同じ信仰であった。キリストの信者は、最も暗黒で最も険悪な状態のもとにあって、すべての光と力の源 に寄り頼んでいることができる。日ごとに神を信じる信仰によって、希望と勇気 を新たにすることができる。「義人はその信仰によって生きる」。神の奉仕におい ては、落胆も動揺も恐怖も不必要である。主はご自分に信頼する者のどんな大 きな期待にもまさることをなしとげてくださるのである。主は彼らに必要な様々の 知恵をお与えになるのである。……

われわれは預言者たちや使徒たちが試した信仰を抱いて、それを強めるようにしなければならない。それは神の約束をしっかりと把握して、神がお定めになった時と方法によって救いをお与えになるのを待つ信仰である。預言の確かな言葉は、われわれの主、救い主イエス・キリストが、王の王、主の主として栄光のうちに再臨なさるときに、完全に成就するのである。待望の期間は長く思われるかも知れない。心は失望的状況下に圧倒されるかも知れない。また、信頼されていた多くの人々が、途中で倒れてしまうかも知れない。しかしわれわれは、未曽有の背信の時代にあって、ユダを励まそうと努力した預言者と共に次のように言おう。「主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ」。「この幻はなお定められたときを待ち、……もしおそければ待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。……しかし義人はその信仰によって生きる」という励ましの言葉を常に覚えていよう。(国と指導者下巻5~7)

2月21日 御霊の実

柔和

「へりくだる者 (柔和な者) を公義に導き、へりくだる者 (柔和な者) にその道を教えられる。」(詩篇 25:9)

イエスは青年を愛しておられる。……イエスは、彼らにご自分から柔和と心のへりくだりを学ぶようにと命じておられる。この尊い恵みが現代の若者のうちに見られるのはまれである。クリスチャンだと公言している者のうちにさえほとんど見られない。彼ら自身の道が、彼らの目には正しく見える。キリストの御名を受け入れることにおいて、彼らはこのお方のご品性を受け入れてもいなければ、このお方のくびきを負うことを受け入れてもいない。そのために、彼らはこのお方の奉仕のうちに見出される喜びと平安を少しも知らないのである。(ユース・インストラクタ - 1883 年 11 月 21 日)

柔和は尊い恵みである。それは自ら静かに忍び、試練を耐える。柔和は忍耐強く、どのような状況下でも幸せであろうと労する。柔和はいつも感謝して、幸福の歌を自らの歌とし、神の心のうちに旋律を奏でる。柔和は失望と悪を忍び、復讐しない。(教会への証3巻335)

柔和で静かな精神は、たえず自分自身の幸せを探しだそうと努めず、かえっておのれを忘れることを求め、他人を幸せにすることにうれしい喜びと真の満足を見出す。(教会への証3巻536)

あなたを神の御目に大いなる者とするのは、頂点に登りつめようとすることではない。そうではなく、あなたを天使たちの特別な庇護の対象とするのは、善意と誠実のつつましい生活である。型であられるお方は、……丘に囲まれた人目につかないガリラヤの町で30年近くを過ごされた。天の万軍は、このお方のご命令一つで動くのであるが、このお方は何一つ偉大なことも高められることもお求めにならなかった。……このお方は賃金をもらって働く大工であり、自分がそのために働いている人たちの僕であられた。これは、わたしたちの通常の生活の歩みにおいて、天が非常にわたしたちの近くにあることができること、また天の宮廷からの天使たちは神のご命令で行ったり来たりする者たちの歩みを守っていることを示している。(ノートプック・リーフレット 24番1,2)

信仰、柔和、愛といった美しい完全な実は、暴風と暗黒の中で最もよく成熟するものなのである。(キリストの実物教訓39)

聖霊の注ぎ 2月22日

力の約束

「すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう。」(使徒行伝 1:5)

神の恵みの富が人々に注がれないのは、神の側で何かの制限があるからではない。このお方の賜物は神に似ている。このお方は人々が受けることを喜ばないために真の価値を評価していないものを惜しみなく与えてくださった。もし、すべての者が喜んで受けるならば、すべての者が聖霊で満たされるのである。……わたしたちは、自分たちの特権として神の聖霊の深い感動を期待できるときに、表面的なさざ波であまりにも簡単に満足してしまう。(レピュー・アンド・ヘラルド 1902 年6月10日)

この賜物を受けることによって、他のあらゆる賜物が自分たちのものとなる。なぜなら、わたしたちはキリストの恵みの富の豊かさに従ってこの賜物を受けるからである。そして、このお方は受ける能力にしたがってすべての魂を満たそうとしておられる。であるから、わたしたちは、この祝福をわずかに何とか死のまどろみから守られる程度の量で満足しないで、神の恵みの豊かさを熱心に求めようではないか。(レピュー・アンド・ヘラルド 1892 年 3 月 29 日)

約束に次ぐ約束が与えられている。それらは、神がもっておられる満ち満ちた力をわたしたちに保証しているが、それでありながらわたしたちの信仰があまりにも弱いためにその力をつかむことができずにいるのである。ああ、わたしたちにはどれほど神のみ言葉の真理を信じる生きた熱心な信仰が必要なことだろう!この神の民の大いなる必要が、絶えずわたしの前にある。……彼らを目覚めさせ、わたしたちがこの地上の歴史のまさに日暮れに生存しているのだということを認めさせるために、わたしたちに何ができるであろう。……わたしたちはエホバのみ腕をつかむ信仰を求める必要がある。(レビュー・アンド・ヘラルド 1909 年 4 月 1 日)

みたまは、へりくだった心で神に仕え、そのみちびきと恵みを待ち望む者にだけ与えられる。神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。この約束された祝福を信仰によって求めるときに、ほかのすべての祝福は次々と与えられる。それはキリストの恵みの富にしたがって与えられるのであって、主はどの魂にもその受け入れる能力にしたがっていつでも与えてくださる。(各時代の希望下巻158)

2月23日 聖霊の注ぎ

力のために備える

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて」(使徒行伝 3:19, 20)

多くの者が、厳粛な神のみ働きに携わっている者たちの間でさえ、聖霊によって働いていただく代わりに、その聖にして命を与える感化力に逆らって道をふさいでいる。彼らは遠慮なく自分の兄弟たちを非難し裁く。それでいながら、自分たち自身がどのような精神を表わしているかを見るために神聖な鏡を熱心に見入る必要性を悟らないのである。彼らの品性の欠点を、彼らは徳だとみなし、それらに執着する。……

改革と悔い改めの働きがなくてはならない。すべての者は聖霊の注ぎを求めなさい。キリストの昇天後の弟子たちと同様に、熱心に神を求めて、罪を取り除くのに数日を要するかもしれない。

聖霊が神の民に働いてくださるとき、彼らは知識に応じた熱心さを表わす。 ……彼らは神が数年来与えてこられた光を反射する。非難の精神は取り除かれる。 へりくだりの精神に満たされて、彼らは一つ思いとなり、互いに、またキリストと結合する。(原稿 107、1903 年)

人が聖霊に満たされるとき、その人は厳しくテストされ試みられるほど、ますますはっきりと、自分がキリストの代表者であることを証明する。魂に宿る平安が、表情に見られる。言葉と行動は救い主の愛を表現する。最高位を求めて努力することはない。自己は放棄されている。イエスの御名がその言うことなすことすべてに記されている。(レビュー・アンド・ヘラルド 1902 年 6 月 10 日)

至るところで、真理をその単純さのうちに生きるならば、そのとき神はご自分の御使を通して、ペンテコステの日に働かれたように働かれるのである。そして、心は決定的に変えられ、聖霊の降下によって表わされたように本物の真理の感化力があらわされるようになる。(特別な証シリーズ B,7 番 64)

聖霊の注ぎ 2月24日

力のためにとどまる

「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」(ルカ 24:49)

すべての真に改心した魂は、他人を誤りの暗黒からイエス・キリストの義の驚くべき光に導くことを非常に熱望する。その栄光によって全地を明るくする大いなる神の御霊の注ぎは、神と共に働くということが何であるかを、経験によって知る啓発された民があらわれるまで、もたらされることはない。わたしたちが、余すことなく完全にキリストの奉仕に献身したとき、神は測り知れないご自分の御霊の注ぎによってその事実を認めてくださる。しかし、教会の大部分が神と共に働く者とならない限り、それはないのである。神は、利己心や自己放縦がこれほど顕著な間は、また言葉には表わさなくとも、カインの「わたしが弟の番人でしょうか」という答えを表明する精神が広く行き渡っている間は、ご自分の聖霊を注ぐことがおできにならない。……

信者の心が神への愛で温ためられているとき、彼らはイエスのために絶えず働く。彼らは、キリストの柔和を表わし、くじけることも失望することもない堅固な目的を表明する。神はご自分の働きのために謙遜な人々をお用いになる。なぜなら、そこには、働き人を必要としている広大なぶどう畑があるからである。(レピュー・アンド・ヘラルド 1896 年 7月 21日)

聖霊の約束は一時代や一民族に限られたものではない。キリストは、み霊の聖なる感化は世の終わりにいたるまで、キリストに従う者の上にあると宣言なさった。ペンテコステの日から現代にいたるまで主とそのみわざに自分を完全にささげてきた人々に、助け主が送られてきた。……信ずる者たちは、神に密接につながって生活すればするほど、あがない主の愛と救いの恵みについて一層はっきりと力強くあかしした。幾世紀にもわたる長い迫害と試練の時代に生きて、生涯、聖霊が豊かにとどまった人々は、この世におけるしるしとなり、不思議となった。」(患難から栄光へ上巻 45)

2月25日 聖霊の注ぎ

力を受ける

「突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。 すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。」(使徒行伝 2:2~4)

み霊は、祈りながら待っていた弟子たちに臨み、ひとりびとりの心を十分に満たされた。無限なる神が、力をもって教会にご自身を現されたのである。この力の現れはもう何年ものあいだ、差しとどめられていたかのようであったが、今こそ、天は、み霊の恵みの富を教会に注ぐことができることをよろこんだ。(患難から栄光へ上巻 32)

使徒たちの時代の聖霊の注ぎは「前の雨」であった。そして、その結果は素晴らしかった。しかし、後の雨は更に豊かなのである。(サインズ・オブ・タイムズ1914年2月17日)

終わりの時まで聖霊はまことの教会に臨在するのである。

地上の収穫が終わりに近くなると、教会を人の子イエスの来臨に備えるために、霊的な恵みが特別に与えられると約束されている。この聖霊の降下は後の雨にたとえられている。クリスチャンは「春の雨の時」にこの特別の力を収穫の主に求めなければならない。これに応えて「主はいなずまを造り、大雨を人々に賜」う。……

恵みを絶えず新たに受けている者たちだけが、日常の必要に応じて、また力を用いる彼らの能力に応じて、力を受けるであろう。霊的な力が特別に賦与されて、やがて救霊のために驚異的な装備を受ける時が来るのを待ち望むのではなく、彼らは、神の御用にふさわしい器としていただくために、日ごとに神に従っている。彼らは手の届く範囲にある奉仕の機会を毎日利用している。家庭の地味な仕事をしていても、あるいは、有用な社会の職場にいても、どこででも彼らは主のためにあかしを立てている。(患難から栄光へ上巻 51,52)

聖霊の注ぎ 2月26日

力ある証人となる

「使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした。そして大きなめぐみが、彼ら一同に注がれた。」(使徒行伝 4:33)

聖霊の注がれた結果は何であっただろうか。一日に何千もの人が改心した。 御霊の剣が、新たな力によって鋭くされ、天の閃光を浴びて、不信の間を切り分け、サタンの代理人たちに打ち勝ち、主を最高の力をもっておられるお方として 大いなるものとしたのであった。

いたるところに福音が宣布された。それを宣布する者たちは、悲しげにつぶやくことがなかった。弟子たちの心は、慈愛に満たされたが、それは非常に満ち満ちて、深く、遠くにまで及んだので、地の果てにまで、出て行かずにはおれなかった。彼らは、神が主イエス・キリストの十字架のほかに誇ってはならないと命じておられることを証するのであった。彼らが福音を、救いにいたらせる神の力として宣布すると、心は聖霊の力に屈服した。新しい領土が日々、教会に加えられた。あらゆるところで、改心した者がキリストを告白した。真理の最も苦々しい敵であった者が、真理の勇士となった。……

弟子たちは、……魂の救いのための重荷を感じていた。福音は、地の最果てまで伝えられねばならなかったので、彼らはキリストが約束された力を賜るように願い求めた。そのとき、聖霊が注がれ、一日に何千もの人が改心したのである。

今もそれが可能である。人間の空論の代わりに神のみ言葉を説こう。クリスチャンたちは、自分たちの意見の相違を取り除いて、失われた者を救うために神に献身しよう。信仰をもって祝福を求めよう。そうすれば、それは来るのである。 (手紙 213、1903 年)

神への熱心が弟子たちを動かし、強大な力で、真理に対する証を担った。この熱心が、キリストしかも十字架につけられたこのお方の贖いの愛の物語を語るという決意をもってわたしたちの心を燃やすべきではないだろうか。(ウォッチマン 1906 年 5 月 22 日)

2月27日 聖霊の注ぎ

わたしはこの力を望む

「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。 その日わたしはまたわが霊をしもべ、はしために注ぐ。」(ヨエル 2:28, 29)

わたしたちは、終わりの時代に生きている。今はわたしたちが主から多くを 期待できる時である。これらのみ言葉が神から大いなることを求めるために、わ たしたちを恵みの御座に連れて行くべきである。ここに、男女に、そしてわたした ちのむすこ娘たちに聖霊が注がれるという約束が与えられている。そして、だれ でも「主の名を呼び求める者は、みな救われるであろう」。この言葉からなされる べきすばらしい働きを見ることができる。そしてそのために、わたしたちは自分の 心のうちに、改心させる神の力を日々必要としている。これを経験することがわた したちの特権である。天は、祝福に満ちている。そして、神の豊かな約束を、個 人個人がわがものとして主張することはわたしたちの特権である。わたしたちは、 昼夜、主を求める必要がある。それは、わたしたちが、どのように歩を進めるべ きか、何をなすべきかをはっきり知ることができるためである。

主は、わたしたち個々人のためになすべき特別な働きを持っておられる。わたしたちが、裁判所で明るみにされたり、新聞で取りざたされたりしている世の邪悪さを見るとき、神の御許近くに行こう。そして、生きた信仰をもって、キリストの恵みがわたしたちのうちに表されるように、このお方の約束をつかもう。わたしたちは世において、感化力、しかも力強い感化力をもつことができる。もし、罪を自覚させる神の力がわたしたちのうちにあるなら、罪のうちにある魂を改心へと導くことができる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1909 年 4 月 1 日)

この地上歴史の最終幕において、〔真のクリスチャン教育を受けた〕多くの子供や青年たちがその真理に対する証によって人々を驚嘆させるであろう。彼らは単純さのうちに、しかしなお、霊と力をもって証を担う。彼らは主を恐れることを教えられてきた。そして彼らの心は、注意深く祈りに満ちた聖書研究によってやわらげられてきた。近い将来、多くの子供たちが聖霊を吹き込まれ、世に真理を宣布する働きをするであろう。……彼らは世において悪の全勢力をもってしても妨害することのできない働きをするのである。(両親と教師への勧告 166, 167)

聖霊の注ぎ 2月28日

全地は明るくされる

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。」(黙示録 18:1)

万物の終わりが近づいている。神は、ご自分の聖霊の感化を受け入れるために開かれているすべての人の思いに働きかけておられる。このお方は、すべての地域に警告を与えるために使命者を送り出しておられる。神は、ご自分の諸教会の献身と、聖霊の導きに捧げる彼らの自発的な服従を試しておられる。知識が増し加えられねばならない。天の使命者たちが、人々に来るべき裁きについて警告し、わたしたちの主イエス・キリストによる救いの喜ばしい知らせを提示できるすべての道をさがしながら、あちこち走り回るのが見られるべきである。義の標準が掲げられなければならない。神の霊が人々の心を動かし、その感化力にこたえる者たちは、世において光となる。至るところで彼らがペンテコステの日の聖霊降下の後にしたように、自分たちの受けた光を他の人に伝えるために出て行くのが見られる。そして、彼らが自分たちの光を輝かせるとき、彼らはますます聖霊の力を受けるのである。地は神の栄光によって明るくされる。(レピュー・アンド・ヘラルド1895 年 7 月 16 日)

このメッセージが、夜中の叫びにはるかにまさる力と勢いをもって閉じられるのを見た。

天から力をさずけられた神のしもべたちは、聖なる献身の念に顔を照り輝かせながら、天来のメッセージを伝えに出て行った。(初代文集 450, 451)

多くの者が神を讃美していた。病んでいた者は癒された。そしてその他の 奇跡が行われた。ちょうど、ペンテコステの大いなる日の前に表されたようなとり なしの精神が見られた。幾百、幾千もの人が、家族を訪れて、彼らの前に神の み言葉を開いた。心は、聖霊の力によって罪を自覚させられた。そして、本物の 改心の精神が見られた。どこでも、真理の宣布に対して戸が開かれた。世は、 天の感化力によって明るくされているように見えた。(教会への証9巻126) 2月29日 (特別編集)

後の雨の約束

「シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び楽しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨と春の雨とを降らせられる。」(ヨエル 2:23)

キリストがご自分の代表者として聖霊を送るという別れの約束は、時がたっても変わりはない。……もし約束の実現がみられないとすれば、それは約束が理解されていないからである。もしだれでも求めるならば、すべてのものはみ霊に満たされるのである。……

これこそ、われわれが力を受ける手段なのだから、み霊の賜物を飢えかわくように求めようではないか。……み霊のバプテスマを日ごとに受けるためには、働き人がめいめい神に願いをささげなければならない。クリスチャンの働き人は仲間同士集まって、いかに計画し、賢く実行するかということを知ることができるように、特別な助けと天来の知恵を求めなければならない。(患難から栄光へ上巻46)

地上における神のみわざが閉ざされる終末の時には、聖霊の導きにより、献身した信徒たちのささげる熱心な努力に、神の恵みの特別なしるしが伴うのは事実である。種まき時と、収穫のころに東方の国々に降る前の雨、後の雨という比喩を用いて、ヘブルの預言者たちは、神の教会に異常なほど豊かに霊的恵みがさずけられることを預言した。使徒の時代の聖霊の降下は前の雨、またはさきの雨の始まりであった。そして、その結果はすばらしかった。終わりの時まで聖霊はまことの教会に臨在するのである。……

しかし、今日、神の教会の信徒たちは、すべての霊的成長の源であられる神 との強いつながりを持っていなければ、刈り入れの時に備えていることにならな いであろう。彼らは絶えずランプの芯を切りそろえて、燃やしていなければ、いざ というときに特別の恵みにあずかることができない。

恵みを絶えず新たに受けている者たちだけが、日常の必要に応じて、また力を用いる彼らの能力に応じて、力を受けるであろう。(患難から栄光へ上巻 51,52)

研究 2

七つの封印と生ける神の印



新しい契約

前回、わたしたちは聖書の中で、印は神とその民の間の契約を有効なものと するために押されたことを見ました。

そしてこの契約の条件を民が守るとき、神は約束を果たしてくださいます。 約束が存在するとき、必要なのが信仰です。

信仰と憶測

イエスは、ローマの百卒長が僕の病気をいやしていただくためにご自分の下に来たとき、「ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はなおります」という信仰をご覧になって、「これほどの信仰を見たことがない」と感心されました(マタイ8:10)。

信仰とは、神のみ言葉に基づくもので、み言葉の約束なければ信仰は存在することができません。

では、み言葉を信じる信仰が何を意味するのかを見てみましょう。

「聖書をりっぱな道徳的な教訓の書として取り扱い、時代の精神や世における自分の立場と両立するかぎりこれにきき従うことと、聖書をその真の姿のままに、すなわち生ける神のみ言葉として、われわれの生命の言葉として、またわれわれの行為や言語や思想を形成する言葉としてみることとは全然別である。神のみ言葉を神のみ言葉以下のものとして見ることは、これをしりぞけることである。(教育 260)

「だが信仰は決して独断的な信仰と関係がない。真の信仰を持っている者だけが独断的な信仰に対して安全である。なぜなら独断的な信仰はサタンから出

た信仰のにせものだからである。信仰は神の約束をわがものとし、従順という実をむすぶ。独断的な信仰もまた約束をわがものにするが、サタンと同じように、これを罪とがの言い訳に使う。信仰があったら、アダムとエバは神の愛に信頼し、神の戒めに従ったのである。ところが独断的な信仰のために、彼らは神の律法を犯し、神の大きな愛によって自分の罪の結果から救われると信じた。……真正の信仰は聖書の約束と条件とを土台にしている。」(各時代の希望上巻 141)

先に見ましたように、契約は条件が果たされたときに、履行されるものです。 条件に従わないなら、その契約は破られることになります。神との契約が破られ たときについて、み言葉には何と記されているでしょうか。

もしあなたがたがわたしに逆らって歩むならそれは契約を破ること

「わたしはあなたがたを国々の間に散らし、つるぎを抜いて、あなたがたの後を追うであろう」(レビ記 26:31-33)。

「わたしはまた野獣をあなたがたのうちに送るであろう。それはあなたがたの子供を奪い、また家畜を滅ぼし、あなたがたの数を少なくするであろう。……わたしはあなたがたの上につるぎを臨ませ、違約の恨みを報いるであろう。あなたがたが町々に集まる時は、あなたがたのうちに疫病を送り、あなたがたは敵の手にわたされるであろう。わたしがあなたがたのつえとするパンを砕くとき、十人の女が一つのかまどでパンを焼き、それをはかりにかけてあなたがたに渡すであろう。あなたがたは食べても満たされないであろう。……あなたがたは自分のむすこの肉を食べ、また自分の娘の肉を食べるであろう。……これらは主が、シナイ山で、自分とイスラエルの人々との間に、モーセによって立てられた定めと、おきてと、律法である」(レビ記 26:20-46)。

「主なる神はこう言われる、わたしが人と獣とを地から断つために、つるぎと、ききんと、悪しき獣と、疫病との四つのきびしい罰をエルサレムに送る時はどうであろうか。……あなたがたはわたしがこれに行った事は、すべてゆえなくしたのではないことを知るようになると、主なる神は言われる」(エゼキエル 14:21-23)。

一方、契約が守られるときには、次の約束があります。

契約が守られる時

「あなたがたはわたしの安息日を守り、またわたしの聖所を敬わなければならない。わたしは主である。もしあなたがたがわたしの定めに歩み、わたしの戒めを守って、これを行うならば、わたしはその季節季節に、雨をあなたがたに与えるであろう。……わたしが国に平和を与えるから、あなたがたは安らかに寝ることができ、あなたがたを恐れさすものはないであろう。わたしはまた国のうちから悪い獣を絶やすであろう。つるぎがあなたがたの国を行き巡ることはないであろう。あなたがたの五人は百人を追い、百人は万人を追い、あなたがたの敵はつるぎに倒れるであろう。……」(レビ記 26:2-13)

そして、神は約束されたことを必ず果たされるのです。

そうであれば、神の約束が実行されるように、契約の条件を果たすことは非常に重要であり、すべてであると言えます。

昔、イスラエルがエジプトから救出されたときに、神と結んだ古い契約は、イスラエルが条件を守らなかったことにより破棄されました。しかし、神は、大いなる恵みによって「『新しい』と言われたことによって、初めの契約を古いとされ」、新しい契約を結ぶとおっしゃって下さるのです。

新しい契約 - 条件と約束 - 命を強調

新約の最後の書であり、終末までの預言を記したヨハネの黙示録の中に、次のみ言葉を読むことができます。「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかた」(黙示録 1:5-6)。これは、出エジプト記 19 章に読む古い契約を結ばれたときからの変わらない神の恵みを告げています。

「それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう』。これがあなたのイスラエルの人々に語るべき言葉である」(出エジプト記 19:5, 6)。

古い契約を結んだときに、その契約を有効なものとする印として血が流され、

その契約を守る厳粛な誓いとしてその血が民に注がれたことは、前回見たとおりです。しかし、民はその条件を破り、契約は破棄されました。

新しい契約においても、契約を有効なものとするのは血です。今度はこの契約が破られることのないように、イエスは、ご自身の血をわたしたちに与えて次のように言われます。

「みな、この杯から**飲め**。これは、**罪のゆるしを得させるようにと**、多くの人の ために流すわたしの契約の血である」(マタイ 26:27-28)。

「人の子の肉を食べず、また、そ**の血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない**」(ヨハネ 6:53-56)。

神の民のために流されたイエスの血には、彼らに契約を守らせる力があります。

「律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである」(ローマ8:3,4)。

そのために、その血の力は、外からではなく、中から働く必要があります。

「贖罪の犠牲は完全にして十分である。それはこのお方の血で印された新しい契約である。この血は罪の許しを得させるようにと多くの人のために流された。キリストは最後の晩餐の時にこれを宣布された。この杯の中には、信仰のうちに飲む人々にとって、平和を作り、魂を清める力がある。それはギレアデの乳香であり、罪に病んだ魂に健康と健全性を回復するために備えてくださったものである」(SDA パイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント]5 巻 1102 (マタイ 26:28))。

それでは、契約の血を飲むとはどういう意味でしょうか?

「イエスの肉を食べ、その血を飲むということは、キリストを自分自身の救い主として受け入れ、キリストがわれわれの罪をゆるしてくださることと、**彼のうちにあるときわれわれが完全であるということとを信じる**ことである」(各時代の希望中巻138)。

こうして、イエスの契約の血を飲むとき、はじめから変わらない神のみ約束が 成就します。

「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける(買われた)民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざ(徳)を、あなたがたが語り伝えるためである」(ペテロ第一2:2-10)。

新しい心&新しい契約(両時代において)

新しい契約は、古い契約にまさった契約で、条件である神の律法を守ることができるように、心を新たにする神の約束に基づいていました。

「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる」(エレミヤ31:33)。

「契約はこれである……もはや、彼らの罪と彼らの不法とを、思い出すことはしない」(ヘブル 10:16-19)。

「そして、これが、彼らの罪を除き去る時に、彼らに対して立てるわたしの契約である」(ローマ11:27)。

この契約は、民の心を新たにして罪から解放し、神の心からその罪の記憶を 消す完全な契約です。

「もう一つの契約は、聖書で「古い」契約と呼ばれているが、それは、シナイで神とイスラエルの間に結ばれたもので、それは、そのとき犠牲の血によって批准された。アブラハムに与えられた契約は、キリストの血によって批准され、『第二の』または、『新しい』契約と呼ばれている。それは、この契約に印を押す血が、第一の契約の血のあとに流されたからである。新しい契約が、アブラハムの時代に効力をもっていたことは、そのとき、神の約束と誓いとによって保証されたことによって明らかである。『それは、偽ることのあり得ない神に立てられた二つの不変の事がらによって』である(ヘブル 6:18)」(人類のあけぼの上巻 440)。

「『古い契約』の条件は、従って生きよということであった『人がこれを行うことによって生きるものである』。しかし、『この律法の言葉を守り行わない者はの

ろわれる』(エゼキエル書 20:11、レビ記 18:5 参照、申命記 27:26)。『新しい契約』は、『さらにまさった約束』によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。……わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない」(エレミヤ書 31:33,34)。

「石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである」(人類のあけぼの上巻 442)。

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け」 (エゼキエル 36:24-28)。

「使徒パウロは、新しい契約のもとにおける信仰と律法の関係を明らかに述べている。『このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。』『すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。』『律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を』一人間は罪深い性質を持っているから、律法を守ることができない。だから律法は、人間を義とすることはできない一『神は……御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである』(ローマ 5:1, 3:31, 8:3)」(人類のあけぼの上巻 443)。

人知を超えた祝福を与えるために契約を立て、その契約に印するためにご自分のひとり子の血を流し、その恵みを悟らずに契約を破る民に、再び「新しい心」を約束する「新しい契約」を結ぼう、そのとき「もはや、彼らの罪と彼らの不法とを、思い出すことはしない」と仰せになる御神の愛と恵みを見るとき、驚きを禁じ得ないのです。

(48 ページの続き)

なたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるの を見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである』。

するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒になって神をさんびして言った、『いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように』。

御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは『さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか』と、 互に語り合った。

そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。

人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。 しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた」 (ルカ 2:9-19)。

ロール白菜

■材料

白菜8 枚たまねぎ1 / 2 個にんじん3 センチごぼう10 センチ里いも2 個玄米 (炊いたもの) 大さじ 2

塩 小さじ 1/2 粉末昆布だし 2 グラム

だし汁(昆布だし) 800ml しょうゆ 大さじ2 塩 小さじ1

しょうが (すりおろし/輪切り) 小片

はちみつ 少々

■作り方

- 1. 白菜を巻きやすいように、やわらかく蒸かします。
- 2. たまねぎとにんじんをみじん切りにして炒めます。
- 3. ごぼうは輪切りにして水にさらし、里いもは皮をむいてから、いっしょに水に入れて、里いもに竹ぐしが通るまでやわらかく煮ます。
- 4. 上記が煮えたら、すべての材料をまぜて、里いもはフォークでつぶし、 具を作ります。
- 5. 具を白菜で巻いて、楊枝(ようじ)でとめます。
- 6. だし汁にすべての材料を入れて煮立たせ、ロール白菜を入れます。
- 7. やわらかく煮えたら、できあがりです。

だし汁に入れて煮るときに、白菜 (材料外) を敷くと焦げなくて便利です。 里いもを入れるとまとめやすくなります。

お鍋の具材にもいかがでしょうか。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第2話 イエスさまのお誕生(下)

ユダヤ人の祭司や役人たちは、イエスさまをお迎えする準備ができていませんでした。彼らは救い主がまもなく来られることは知っていましたが、そのお方は自分たちをお金持ちでえらい人にしてくれる力強い王さまだと期待していたのです。彼らは、あまりにもほこり高くて、無力な赤ん坊としてのメシヤなど考えられませんでした。

ですから、キリストがお生まれになったとき、神さまはそのことを彼ら には明かされませんでした。この喜ばしい知らせをベツレヘムをかこむ丘 で羊の群れの番をしていた羊飼いたちにお伝えになったのです。

彼らは善良(ぜんりょう)な人々でした。彼らは夜、自分たちの羊の番を しながら、互いに約束の救い主について語り合い、このお方が来られるよ

うにととても熱心にお祈りをしていました。そこで神さまはご自分の光のみ座から輝かしい使者を送り、彼らに教えてくださったのです。

「すると主の御使(みつかい)が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。

御使は言った、『恐れるな。 見よ、すべての民に与えられる 大きな喜びを、あなたがたに伝 える。きょうダビデの町に、あ



(45 ページに続く)